

中 町 総 企 第 8 号
平成20年10月14日

国土交通省道路局長 殿

中標津町長 小 林



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号によりご依頼のありました
このことについて、別紙のとおり提出致しますので、宜しくお取り計ら
い願います。

今後の道路行政についての意見・提案

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

北海道 中標津町

広大な面積に180市町村が点在する北海道は、人の移動、物資の輸送の大半を自動車交通に依存していることから、道路は住民生活や経済・社会活動を支える最も重要な社会基盤に位置付けされているが、冬期間における厳しい気象条件の克服、台風・地震などの自然災害時に発生する交通障害、交通事故の多発、道路施設の計画的な補修・更新など、解決すべき課題を抱えているなか、道路整備は全国に比べて、大きく立ち後れています。

高規格幹線道路から住民に最も密着した市町村道に至る道路網の整備が必要であり、これら高規格幹線道路ネットワーク形成は圏域間の交流・連携の強化、経済活動の活性化、地域医療の充実などを図る上で最重要課題です。

中でも、地域高規格道路として現在整備が進められている釧路中標津道路は、釧路・根室管内の内陸部を横断し、中核都市である釧路市と中標津町・別海町・標津町及び羅臼町を結び、水産・農業など基幹産業の振興に寄与し、経済等の安定、医療・教育及び広域観光など、多岐にわたる生活圏の諸活動を支える重要な路線であり、都市間の地域連携を促進し、都市機能を相互に補完及び連携するために、早期の整備を要望致します。

また、現在国が検討を行っている出先機関の見直しの中で、北海道開発局に関する様々な議論は、現在の日本の食糧基地として北海道開発の中軸を担ってきた基本的な意義や役割、歴史を踏まえて、今後の北海道の課題解決に貢献する戦略的な目標を持って進める必要があります。

中期計画の5年間については、北海道経済に与える影響をはじめ社会基盤整備が遅れている現状や、地域主権型社会に向けた町村の体制整備を十分考慮し、性急ではなく慎重な地方分権改革を推進するとともに、北海道開発(開発法・予算一括計上・北海道特例)の基本的枠組みを維持して進めていく事を要望致します。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

北海道 中標津町

○現状

当町で生産される生乳は、鮮度保持のため極めて短時間で本州の工場へ輸送しなければならず、重要港湾釧路港から出港するフェリーの出発時刻に確実に間に合わせなくてはならない。

当町においては、医師不足を始めとする地域医療の問題を抱えており、第3次医療圏(釧路市)への片道100キロに及ぶ患者の長距離搬送が日常化されている。

大牧草地と北海道遺産に指定されている格子状防風林に代表される牧歌的風景は、当町の重要な観光資源であり、「釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ」のルートにも指定されている。

○課題

更なる品質向上を図り基幹産業として確かな競争力をつけるためには、輸送時間の短縮は必要不可欠な条件であり、この条件が成立しなければ当町のみならず、この地域の基幹産業である農業の発展はあり得ず、経済活動の停滞を意味する。

搬送時間の短縮や冬期の安定走行は絶対不可欠な条件であり、道路整備が住民の命を握っているといっても過言ではない。

これらを活用した観光業は当町の今後の発展を担うものであり、そのための道路整備は必要不可欠な条件である。

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

北海道 中標津町

根室管内は、広大な土地面積に集落が散在しており、住民生活の利便性の拡大や、農・水産物・生産資材の輸送などに役割を果たしている国道・道道等の幹線道路が整備されその中継基地として、中核都市中標津町はその重要な役割を担っています。

国鉄の分割・民営化に伴い、平成元年に標津線が廃止され、根室管内4町にJRが運行していないため、管内のほぼ全域で集合バスが公共交通手段となっています。

少子高齢化の影響もあり、マイカーの普及は減少傾向にありますが、幹線道路整備が進められる事により、学生や高齢者など住民にとって、集合バスは唯一の交通手段であることから、道路に付帯する歩道・バス待合所・バスレーンが確保されて、地域のニーズに合った路線運行を含め道路の利用促進が図られています。

根室管内のセンター病院として機能強化された町立中標津病院は、通年、羅臼町・標津町・別海町からの緊急患者を、耐震構造と防雪・消雪施設で整備強化された国道・道道により安全に搬送され、安心と信頼の地域医療が構築されています。

中標津空港の整備が進められた結果、中型機の通年運航が可能になり、北方領土へのビザ無し交流等は、短時間で移動が可能になり、高齢化した旧島民の負担が軽くなり、ビザ無し交流の他に中標津空港は北方領土と相互乗り入れの中継空港として、空路から陸路の重要な中継都市として機能しています。

更に観光面でも国際化が進み、イギリスからバードウォッチングツアーを迎えたり、根釧台地の格子状防風林をはじめ、羅臼町では知床世界自然遺産、更に中標津町・別海町の広大な酪農景観が注目され、外国からの観光客を国道・道道等の幹線道路は、英語・中国語・韓国語・ロシア語による景観に配慮した案内標識で対応しています。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

北海道 中標津町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	・地域高規格道路釧路中標津道路 ・地域高規格道路根室中標津道路	住民生活の利便性の拡大、水産・農業など基幹産業の振興に寄与し、経済等の安定、医療・教育及び広域観光など、多岐にわたる生活圏の諸活動を支える。	